2010.03.16 作成

YSP－Ⅱ

取扱説明書

有限会社ヤブタ

安全に関するご注意

必要な安全規則（労働安全規則など）を遵守してください。
機械操作時には、必ず機械を熟知した熟練者が操作ください。
使用中は、ベルトなどの回転部分が露出している部分がありますので、絶対手など触れないようにしてください。工具や棒などでも同様触れないようしてください。
目土散布時は、目土に枝や石など固形物が混ざりこんでいる可能性があり、固形物が遠方へ飛び出す危険もありますので、他者がそばに寄らないようお願いします。
バックファイヤー等により火災の恐れがありますので、エンジン周りに可燃物を置かないようにお願いします。
機械の調整、メンテナンス時は、必ずエンジンを切り、エンジンキーを抜き、他者が勝手に操作できないよう対策をお取りください。
機械の調整、メンテナンス時は、必ず平地にて輪留めをかけ作業ください。
機械起動時には、オペレーターがエンジンキーを持ち歩き、必ず周りの安全を確認してからエンジンキーを差込、始動すること。また、オペレーター以外の人物が近くにいないか、いる場合は、声を掛けるなど安全を促してください。
機械のメンテナンスや休憩中など、動作すれば重大な事故に発展する恐れがあるときには、動作することの無いように必ずエンジンキーを抜くこと。

1. 日常点検

- オイル点検

エンジン	オイルゲージによりオイル量を確認する。
円盤用ギヤ BOX	0.7L　JIS ギヤ油工業２種

- 異音確認

  動作中に異常音を感じたら緊急停止し、異常を確認する。
  ただし、安全カバーを開けての確認の場合は、十分安全を確認した上で作業を行うこと。

点検には、各使用部品の取説も十分確認ください。

2. 定期点検

- **駆動チェーン**

  ゆるみが無いか、異常音を発していないか確認する。ゆるんでいる場合は、テンションを調整する。調整が利かない場合は交換する。

- **ベルト**

  ゆるみが無いか、異常音を発していないか確認する。ゆるんでいる場合は、テンションを調整する。調整が利かない場合は交換する。

- **ユニットベアリング**

  半年に１回グリスアップする。

- **エンジンに関することは、エンジン取扱説明書をご覧ください。**

3. 本体の取付

本体をトラックに搭載する場合は、クレーンなどによりつり上げ、トラック中央に搭載すること。このとき、エンジンが本体ベースよりはみ出ているので、積み込みの際には、キャビン側に盤木などを利用して保護してください。

吊り上げは、ホッパー４隅に取り付いたつり金具を利用すること。

固定のときは、あおりを上げアジャスターボルトにより、４隅を横滑り防止のために調整すること。

ワイヤー荷締め機を使用し、４箇所トラックに締め付ける。

4. エンジンスタート

- ガソリンコックを開ける。
- チョークを引く。（冷えているとき）
- 周りの安全を確認し、キーを差込、セルを回す。
- チョークを戻すこと。

5. エンジンストップ

- エンジンを切り、キーを抜く。
- ガソリンコックを閉じる。

6. 目砂散布、送り出し

適当なタイミングでスイッチを入れ、目砂（送り出し）作業を開始する。

アクセルは、スイッチが入ったのち回転が自動的に上がり、数秒後送り出しや目砂散布用クラッチがつながります。

終了の場合は、スイッチを切る。

（アクセルは、BOX 内の直動コイルの中子が固着しないようテフロン加工してありますが、予備に１個ありますので、かじる場合は交換ください。消耗品です。）

7. 目砂送出し量の調整

スクリュー回転調整用ノブを量の増減により、必要な方向にノブを回す。
このとき故障の原因となりますので、必ず操作スイッチを入れ、回転中に調整すること。

8. 散布円盤の調整

円盤回転調整用ノブを散布幅の増減により、必要な方向にノブを回す。
このとき故障の原因となりますので、必ず操作スイッチを入れ、回転中に調整すること。
回転を上げると散布幅は広がりますが、助手席側に多く広がる傾向があります。均等にするためには、散布円盤の角度を後方より見て左上がりにすることで調整できる場合があります。
また、回転を上げすぎると調整が利かない場合もあります。
円盤に取り付けた羽の角度を変えることでも調整できる場合があります。

9. トラック運転時の注意

目砂散布機を搭載することまた、ホッパーに砂を入れることにより、重心が上になりますので、トラック自体が転倒しやすくなりますので、勾配部を走行する場合は、ご注意ください。
また、最大積載量を越えて走行する場合は、低速を心がけてください。ブレーキの利きが悪くなることがあります。

10. 最大積荷重量

目砂散布機本体は、約 900Kg あります。最大積載量２トンのトラックの場合、メーカによって軸許容荷重が１トン程度、余裕がある場合は、１トン以上の砂積載が可能ですが、メーカにお問い合わせください。一般道走行の場合は、積載量２トンを超えて走行できませんので、ご注意ください。